一二三　普魯西の衰退を問ふ

答 普王フリードリヒ、ヰレヘルム三世は、一八〇六年を以て佛と戰へり。佛軍勝つて伯林に入り、ナポレオンは王宮に亂入して財寶を奪ひ、尚ほフリードリヒ大王の墳墓を發きて棺中に納めたる寶劍、寶玉等を奪ひ去りぬ。かくて普王は一八〇七年を以て、チルシット條約を結ひ、ライン、エルベ兩河間の地を讓り。且つ佛の命によりて、常備軍を四萬二千人に限られ、償金一億四千フランを拂へり。

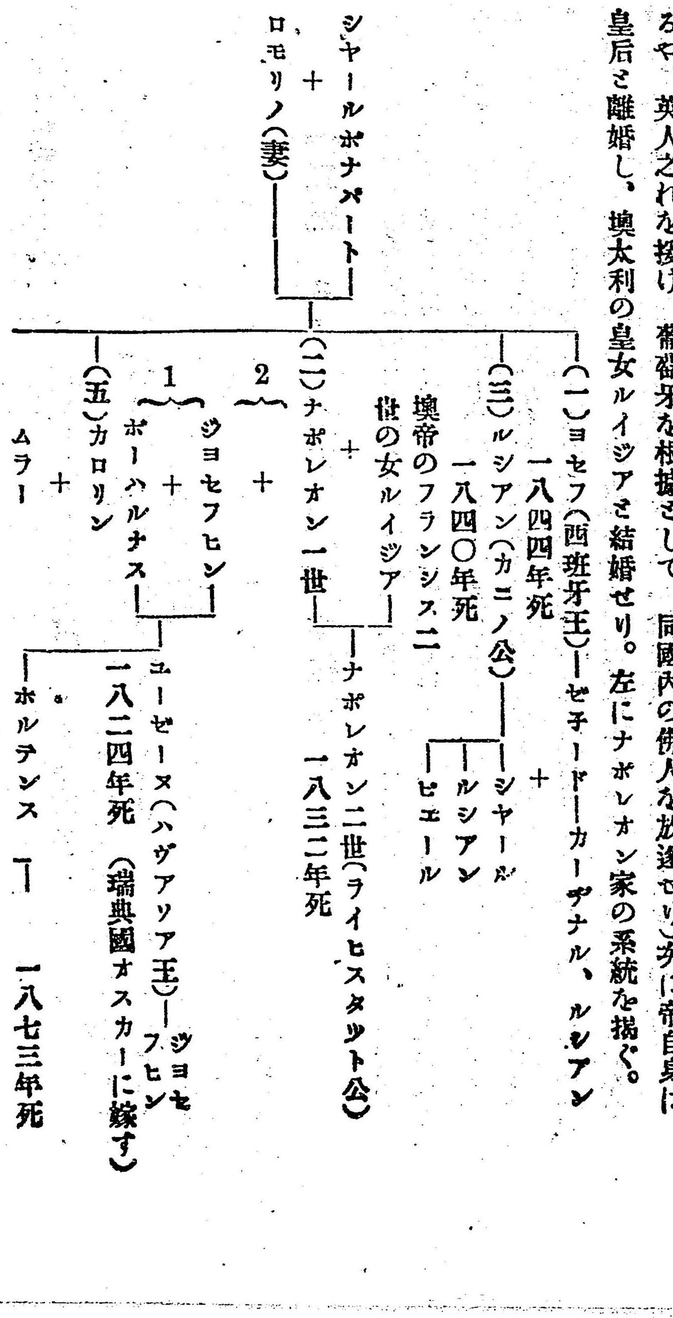
一二三　大陸同盟とは何ぞや

答 ナポレオンは、英國を苦めむかために、歐洲各國に命じて、英と通商するを禁じたり。此の時歐洲の諸邦は、皆ナポレオンが威風に畏れて、之れを諾せり。これを大陸同盟といふ。げに此頃は、帝の勢力が頂點に達したる時なり。

一二四　ナポレオンの封じたる國王を問ふ

答 ナポレオンは、其の征服せる土地には、己が親戚を封じて王とせり。妹の夫ムラーに子ーブルスを、兄のヨセフには西班牙を、弟ゼロームにはエストファーレン國を、弟ルイに和蘭を、妻のジョセフヒンが連子なるユーゼーヌにはバヴアリア國を與へて王と

せり。(因に言ふ西班牙に王位の爭あるや、ナポレオンは之に干渉し兄のヨセフにしてチーブルス王たりし者をして、此の王位に上らしめき。其の後西班牙人の叛を圖るものあるや、英人之れを援け、葡萄牙を根據として、同國内の佛人を放逐せり)次に帝自身は、皇后と離婚し、墺太利の皇女ルイジアと結婚せり。左にナポレオン家の系統を掲ぐ。



（＋印は結婚のしるしなり）

- （四）ルイ（和蘭王）一八四六年死
  - ナポレオン三世（＋）
  - （六）ゼロームエストフアーレン王）一八六〇年死
    - テーバ伯ユーゼーヌ
    - ルイナポレオン一八三一年死
    - シャール、ナポレオン一八〇七年死

一二五　スタイン宰相の國勢恢復策を問ふ

答　ナポレオンの爲に蹂躙せられたる普魯西の王井リヘルム三世は、スタインを登用して國力の挽回に當らしめたり。スタイン（一七五七年十月生）は智謀に富める人物にして、而も外面には無能を裝ひしかば、慧眼なるナポレオンすら其の胸中を知らざりき。スタインは先づ國民の元氣を恢復せむが爲に、軍歌を造らしめて、愛國心を鼓舞せり。其の作家としては有名なる詩人キヨルヲル出でき。又國家教育を盛にし、國民皆兵主義を布き、貴族の特權を廢し、地方自治制を定め、獨逸統一の方針を取り、且つ學問を奬勵したり。然るにナポレオンは漸くスタインを疑つて、其の免職を普王に薦めり。一八〇八年スタインの職を退くや、ハルデンベルヒ是れに次ぎ、尚ほスタインの計策を暗々裡に實施して、只管國勢恢復を謀り、其の漸く強大なるに至つて、機を窺ひ、往年の恥

辱を雪がむとせり。

一二六　ナポレオンの露國征伐の始末を問ふ

答　露國の大陸同盟を破つて、英國と通商貿易を開くや、ナポレオン怒つて、大擧して是を攻めたり（一八一二年）露は瑞典及び土耳古を味方として、佛軍に當りぬ。ナポレオンは九月十四日を以て、モスコーに侵入しけるが、此の時露軍は市を燒きて退き、市内空虛なりしかば、佛軍饑餓に迫り、已むを得ず退軍するや、露軍の要擊に遭ひ、軍兵の大半は戰死せり。時に天寒く、寒氣に慣れざる佛兵は大敗し、ナポレオンは僅に身を以て免れ、十二月十八日巴里に歸れり。

一二七　露普墺の同盟を問ふ

答　ナポレオンの露にて敗るゝや、普魯西先づ起つて露と同盟せり。ナポレオンはライン聯邦の兵を以て之れに當り、ザクセンに於いて勝利を得たれど、後墺國の敵軍と同盟してナポレオンに當るや、佛軍利あらず、遂にライプチヒの戰（一八一三年十月）に於いて、同盟軍大勝利を得て、ライン聯邦は解散し、ウエストフアーレン王國は滅びたり。

一二八　英國軍の進路を問ふ

答 ナポレオンの露、墺、普と戰ふ時に當り、他方よりは、英の驍將ウエリントン、葡萄牙より上陸し、西班牙に入りて、ヨセフを逐ひ、破竹の勢を以て佛國に亂入したり。此の時和蘭亦叛けり。かくて同盟軍は、一八一四年を以て巴里に侵入して、ナポレオンの軍を破れり、

一二九 佛國の王政復古を問ふ

答 同盟軍の巴里を陷るゝや、元老院はナポレオンを廢したり。かくてナポレオンは地中海の一小島エルバ島に謫せられ、年金を受くる身とはなりぬ。而して同盟國はルイ十六世の弟ルイ十八世を立てゝ佛王とし、且つパリス條約に由りて佛國の境界を一七九二年の舊に復し、ナポレオンの廢したるチープルス其他の土を復位せしめ、更に爾來歐洲諸國に關する事件は、墺國維也納にて開議することを約せり。

一三〇 ナポレオンのエルバ島逃奔を畧述せよ

答 佛王ルイ十八世は人望なく、國王の基礎未だ定まらざるに乘じて、ナポレオン黨はエルバのナポレオンと通じ、ナポレオンは一八一五年三月を以て佛國に上陸し、ルイ王を逐うて、再び佛帝となれり。此の時同盟諸國は、維也納にて、領土確定のために、協議中なりしが此の報を聞き、直に會議を中止して、戰鬪の準備を爲せり。

一三一 ウオーターローの大戰を問ふ

答 ナポレオンは狂喜せる佛人に迎へられ、直に軍隊を組織して、同盟軍を破らむとせり。英普の軍は、卒先して佛軍に當れり。ナポレオンは兩國の軍兵未だ合せざるを機として、ウオーターローに英軍と開戰せり。英の將軍ウエリントン善く戰ひ、兩軍死を決して退かざりき。此の時普軍來つて、直に佛軍に當りしかば、佛軍破れて、ナポレオンは身を變して海岸に逃れ、これより米國に渡らむと企てしかど、英艦のために捕へられたり。かくて列國は第二回の巴里條約を結びて、ルイ十八世を立て、佛の領地を一七九〇年の舊に復さしめ、ナポレオンを、一人の罪人として、亞非利加沿海のセントヘレナ島に流竄せり。(一八一五年)稀世の英雄は、一八二一年六月を以て、寂寥たる此の孤島に永眠せり。

一三二 維也納會議の結果を問ふ

答 一八一五年、墺、佛、英、普、及び露の五大强國が開きたる維也納會議の結果は左の如し。

(一)墺國はミラン及びヴエニスを恢復せり。

(二)普國はライン州、ワルシヤ侯國の一部、ザクセンの大部、ポメルン等を取れり。

(三)獨逸は三十九國及び四自由市を以て聯邦を造り、會議はフランクフォールトにて開く事とせり。
(四)露國はワルシャワを得たり。
(五)和蘭及び白耳義は合してニーデルランド王國となれり。
(六)英吉利はマルタ、ヘリゴランド及び喜望峰を得、且つアイオニア諸島共和國の保護者となりぬ。
(七)諸威は瑞典に合併せらる。
(八)丁抹はラヴエンブルグを得
(九)伊太利のサルヂニア王はゼノアを合せり
(十)ナポレオンの敗屈時代に廢せられたる西班牙、タスカニー、モデナ、法王領、子ープルス、サルヂニア等の王位は再興せられたり。

一三三 佛國大革命時代の歐洲哲學界の名家を擧げよ

答 此の時代に尤も隆盛なりしは哲學研究にして、就中獨逸は、多くの名家を出せり。其の重なる人を列擧すれば左の如し。
(一)カント(一七二四年——一八〇四年)純理批判、判斷力批判、實際的理性の批判の三大著述あり。彼れに依りて哲學思潮一變す。

(二)フイヒテ(一七六二年——一八一四年)(三)シエリング(一七七五年——一八五四年)ヘーゲル(一七七〇年——一八三一年)等は尤も名あり。
英國の學者にはゼームス、ミル(一七七三年——一八三六年)ハミルトン(一七八八年——一八五六年)等あり。

一三四 當時に於ける文學者を擧げよ

答 國別にして擧ぐれば左の如し
伊太利 詩人アルフイエリ(一七四九年——一八〇三年)史家ボッタ(一七六六年——一八三七年)
佛蘭西 シャートブリアン(一七六八年——一八四八年)スタエル夫人(一七六六年——一八一七年)
英吉利 ウオルヅヲルス(一七七〇年——一八五〇年)バルンス(一七五九年——一七九六年)バイロン(一七八八年——一八二四年)以上詩人、
小説家スコツト(一七七一年——一八三二年)
詩人ゲーテ(一七四九年——一八三二年「フアウスト」を傑作とす)シルレル(一七五九年——一八〇五年「ヰリヘルム、テル」なる劇詩有名也)アルント(一七六九年——一八六〇年)ウーランド(一七八七年——一八六二年)等皆な獨逸

（餘々たる詩人にして、此の他幽玄奥妙を尚びたるロマンチック一派の泰斗シュレーゲル兄弟あり。

一三五　當時の科學者を擧げよ

答　獨人フムボルト兄弟（兄はヰルヘルムと云ひ一七六七年生、一八三五年死、弟はアレキサンダーと云ひ一七六九年生、一八五九年死）は博物學、言語學を進め、英人プーストリー（一七三二年――一七九四年）は酸素其の他の元素を發見し、同じくダルトン（一七六六年――一八四四年）は原子說を開き、伊人ガルヴアニー（一七三七年――一七九八年）は動物電氣を研究し、獨人ウエル子ル（一八一七年死）は地質學を進め、英人ツエンナー（一七四九年――一八二三年）は種痘術を發明せり。又ラマルク（一七四四年――一八二九年）は進化說の端緒を開けり。

一三六　當時の美術家を擧げよ

答　伊人カノヴア（一七四七年――一八二二年）英人フラクスマン（一七五五年――一八二六年）は共に彫刻を以て名あり。繪畫には英國人レーノルヅ（一七二三年――一七九二年）ターナー（一七七五年――一八五一年）あり。音樂家には有名なる獨逸のベートーヴエン（一七七〇年――一八二七年）シューベルト（一七九七年――一八二八年）。

等尤も有名なり。

最近世史

一　神聖同盟とは何ぞや

答　佛帝ナポレオンの倒るゝや、革命反對熱盛に起り、其の結果として自由精神の抑壓のために、墺の宰相メッテルニヒ及び露のアレキサンダー一世中心となりて、神聖同盟造られり。こは神意を以て世界の平和を計るを目的とすと表言せるものなれど、實は革命黨の勃興を防くを目的とせり。此の同盟に入らざりしは英と土耳古となりき。而してメッテルニヒは一八一九年を以てポヘミヤのカルスバットに神聖同盟會議を開きて、出版の自由を禁じ、大學を政府監督の下に置くことせり。

二　當時の各國民の意向を問ふ

答　革命の餘波として列國民は、自由の憲法を得むことを願へり。獨逸の如き、此の氣運尤も旺盛なりき。

三　西班牙の革命を問ふ

答　フエルヂナンド七世の專制主義をとるや、國民憤怒して、秘密結社を造り、一八二〇年には内亂を生じたれど、神聖同盟の力によりて、保守黨勝てり。然れども本國に於ける西班牙の勢力衰へて、コロムビヤ（一一八九年）アルゼンチン（仝年）チリー（一八一八）の三共和國獨立し、ペル、メキシコには叛亂絶にざりき。

四　葡萄牙伊太利の革命を問ふ

答　葡萄牙は一八二〇年を以て新憲法を造り、伊太利にはカーボン黨起つて自由を主張し、ナープルス、シシリー、ザルヂニア、ミラン等に不穩の兆ありしかば、神聖同盟はメッテルニヒの議に從ひ、トロパウ會議（一八二〇年）ライバッハ會議（一八二一年）に依りて革命鎮壓を決議し、直に伊太利諸方の新憲法を破り、一八二二年のヴエロナ會議に依りて、西班牙の革命黨を抑へ、一八二八年葡萄牙の新憲法を破棄したり。

五　モンロー主義とは何ぞや

答　葡萄牙領ブラヂルは一八二二年を以て獨立し、メキシコは一八二一年、ペルは一八二四年を以て共に西班牙より分離するや、神聖同盟は、之れに干渉せむとせり。然れど

も時の英國宰相カンニングが外交手段によりて、其の志を遂げざりき。而して此の形勢を見たる北米合衆國大統領モンローは、歐米諸國にして、米大陸の新設共和國に對して干渉を試みるは合衆國に敵意を表するものなりと宣言し（一八二三年）專制主義の浸潤を防遏したり。是れをモンロー主義と稱す。

六　希臘の獨立を問ふ

答　歐洲に自由思想の勃興するや、永く土耳古の桎梏を受けたる希臘人はヘタイレアイ同盟を造り、イプシランチを首長として、土耳古に叛せり。此の時メッテルニヒは、自由思想を嫌ひて、希臘を助けざりしかど、希軍不利なりしかど、露帝アレキサンドル一世崩じてニコライ一世の即位するや、メッテルニヒが言を入れず、英佛と同盟して、一八二七年ナヴアリノの海戰にて土軍を破りき。次で土軍利あらず、遂に一八二九年を以て希臘の獨立を承認せり。國民はバエルン侯オツトを迎へて王とせしが、一八三二年丁抹王クリスチアン九世の王子ゲオルゲオス二世を迎へり。此の戰爭には個人として希臘を援けたる者多し。此の獨立によりて、露國は、モルテヴイア、及びワラキヤに於ける保護權を擴張し、黑海の自由航海權を握り、英はアイオニアン諸島の保護權を棄てゝ、希臘に讓れり。これを倫敦條約といふ。

七　七月革命とは何ぞや

答　維也納會議以後の佛國は、王黨、共和黨及びナポレオン黨の三者軋轢せり。ルイ十八世に次いで、シャトル十世の即位するや、壓制主義を用ひ、言論の自由を禁じ、更に恣に國會議員の改選を命ぜしかば、巴里市民大に憤つて、直に兵器を執りて政府を顚覆し、（一八三〇年七月）オルレアン侯ルイ、フヒリップは國王となれり。

八　白耳義の獨立を問ふ

答　和蘭の束縛を受けたる白耳義人は、七月革命の報を聞くや、直に兵を擧げて、和蘭に叛き、佛軍の後援を得て勢力を張れり。かくて英佛は一八三一年の倫敦會議にて、白耳義の獨立を承認し、國民はザクセ、コーブルグ侯レオポルド一世を王とせり。今王はレオポルド三世なり。

九　波蘭の叛亂を問ふ

答　七月革命の報は波蘭人を動かせり。彼れ等獨立を宣言したれども（一八三〇年十一月）オストロレンカの戰に破れ、露は從來許可したる特別政治の權を剝奪して、全く本國の地一方として其の特性を消滅せしめむとを計れり。

一〇　伊、西、瑞西の動搖を問ふ

答　伊太利の自由主義徒は、墺軍のために鎭壓せられたれど、伊國統一の希望は、燃々として燃え上りぬ。西班牙にては、王位承繼の紛議ありしが、自由黨のイサベラ女王の專制黨カーロスを倒して王となるや、新憲法を發布せり。瑞西にては、自由主義徒の蜂起ありて、一八四七年には自由思想勝利を占め、翌年新憲法發布せられき。

一一　關稅同盟とは何ぞや

答　一八二八年普魯西王は、聯邦諸國間に通商規則なきを憂へ、近隣の數邦と、關稅同盟を造れり。一八三〇年には諸邦概ね之れに加盟し、普は其の中心となり、これより獨逸一統の思想は形を露せり。此の頃亦七月革命の餘波として、二三の侯國は、新憲法を發布したり。

一二　英國國會の改革を問ふ

答　穀物條例に困める下民は國會改良を唱へ、ジョーヂ四世を經て、ウイリアム四世の時、漸く選擧法改正案を通過し（一八三二年）これより、中等社會にも選擧權を有するもの多くなれり。次で愛蘭の名士カーコンネル一八三八年を以て、勞働社會を煽動して、券狀黨を結び、ヂプデン、及びブライト等の出づるに及びて、穀物條令は廢止せられた

り（ヴイクトリア女皇の朝、一八四六年）又一八三三年には英領に於ける奴隷賣買を禁ぜり。

一三　東方に於ける英國の勢力を問ふ

答　英政府の勢力は次第に印度全部に及び、一八二四年には新嘉坡を、一八三九年に至つてはアーデンを取れり。又清國と通商條約を結ぶの困難と、鴉片の輸入禁止とが原因となりて、一八四〇年には鴉片戰爭起り、一八四二年の南京條約にて、英は香港を取れり。

一四　露國の東方經畧を問ふ

答　十七八世紀の頃より東方經營に從事し、カムサツカ、アラスカを領し、ザカレーン島に上陸して我が邦に通商を求めき（一八〇四年）

一五　中央亞細亞に於ける英露の衝突を問ふ

答　露は西比利亞の財源たらざるを知り、裏海沿岸の地を開き、印度に通路を開かむと欲して波斯を侵せり。（一八二七年）然るに波斯は露に親和して、阿富汗に侵入せり。是に於いてか英軍は、阿富汗の首府カブールを圍みて（一八三九年）之れを陷ゐれ、以て露の南下を防ぎたり。但し中央亞細亞に於ける英露の角逐は、今日尚ほ未だ決了せられ

ざる問題なり。

一六　埃及土耳古の關係を問ふ

答　一八三一年埃及の副王マホメツドアリーのシリアを侵略するや、土耳古と干戈を交へり。英、墺、佛は土耳古に勸告してスケレッシー條約（一八三三年）を結ばしめ、露土は攻守同盟を結べり。後土埃再び開戰し、一八四〇年の倫敦會議にて局を結べり。此の時獨り佛國のみ埃及の利益を主張したれど効なかりき。

一七　佛王ルイ、フヒリップの失政を問ふ

答　佛王は王黨（ブールボン黨）共和黨及びナポレオン黨を敵として立ち、ギゾー、チエール等を補佐の臣としたれども、外交政略にて失敗し、選擧法の改良を行はざるや、大に民の怨を買へり。而してシモンなる者が、共産主義の社會を主張して、貧富の懸隔を調和せむとするや、王は言論の自由を禁ぜり。是に於いてか王の名聲、愈よ地に墜ちたり。ルイナポレオンの叛は此の頃なり。去れど成功せざりき。

一八　二月革命を畧述せよ

答　共和黨の勢力大に進み、一八四八年二月、選擧改正大宴會を開きて、政府に對抗す

るを宣言し、次いで革命に着手せしかば、王は英に逃げ、當時英に隱れ居たるルイナポレオン歸國して人心を收攬し、仝年十二月大統領となれり。次いで非常手段を以て議會を解散し、十年の大統領となり（一八五一年）翌年一月、國民多數の投票に依りて、佛蘭西皇帝と稱せり。是れをナポレオン三世とす。

一九　二月革命の影響を問ふ

答 二月革命亦諸方に波及せり。

墺國にては大學生の自由主義論爆發し、メッテルニヒは英國に走り、國民議會の召集となりて、新憲法の制定に着手せり。此の時匈牙利の愛國者コッスート兵を擧げて、墺國の羈絆を脱せむとせり（一八四九年）去れど露墺の軍に破れ、却つて自由を失ふに至れり。但し昨今は墺國にても寛大の處置を行へり。

普魯西にては、一八四八年を以て新憲法を布かざるを得ざるに至れり。伊太利内の諸市、其他ハヴアリア、バーデン、ザクセン等にも暴徒起つて自由權を求めたり。但し其の後伊太利は墺國のために平定せられ、一たび造られたる新憲法は破棄せられ、サルヂニア王カルロスは位をエマニユエル二世に讓れり。次にマッヂニー等の計畫になれる法王領の共和政治はナポレオンの爲に破られて、舊態に復せり。

二〇　獨逸國民議會の始末を問ふ

答 一八四九年バーデンの發議により、獨逸憲法を制定せむため、國民議會をフランクフォールトに開けり。去れど獨逸聯邦を如何なる政府にて統括するか、墺太利を新聯邦より除くべきかに就きて異說起り、遂に何等の効果をも收めずして解散せり。一八五〇年に至りて、普魯西の獨逸聯邦の牛耳を執らむと欲して、エルフールトの同盟會議を開くや、墺と衝突せり。去れど露帝の仲裁にて和解せり。

附記　一八四八年シユレスヰヒ、及びホルスタインの二州は獨逸聯邦に入らむと欲して丁抹と戰ひしが、英露の干涉によりて、依然丁抹領となれり。

二一　クリミア戰爭を略述せよ

答 露帝ニコライ一世は土耳古を分割せむと欲し、英に向つて、埃及、クリート及びザイプラスを取るを承諾すべければ、我れに同盟せよと言へり。英の之れを拒絕するや、露は單獨にて事を謀り、先づ土領内の基督教徒か保護者たらむとを要求し、其の擔保としてモルデヴイア及びワラキヤを占領せり。英佛兵をクリミアに送つて土軍を援けたれば、露軍大に避易し、一八五五年には其根據地たるセバストポール陷落せり。此の年露帝崩じてアレキサンダー二世即位し、翌年巴里條約にて和議を結べり。露は在土領の基

督教徒が保護者たる權利を棄て、土耳古は基督教及び回々教兩信徒に同權を許し、黑海は公開せられたり。次にモルデヴィア及びワラキアの二洲は一八六一年を以て獨立してルーメニア公國となり、全八一年王國となれり。

二二 伊太利の統一を問ふ

答 サルヂニア王廷にカヴールなる賢相出づるや、同國の勢大に進めり。カヴールは義士ガリヴアルヂーと結び、佛帝に訴へて兵力を借り、一八五九年を以て墺國と開戰したり。墺軍破れて、ロムバヂーをサルヂニアに讓れり。一八六〇年パルマ、モデナ、タスカニー等皆サルヂニアに合併せられ、ガリヴアルヂーはシリーを征服してサルヂニア領とし、王は子ーブルス及び羅馬以外の法王領を平定したり。是に於いてか羅馬ヴエニスの外は悉くサルヂニア領となり、王は一八六一年伊太利王と稱して、都をフローレンスに奠めたり。

二三 英佛聯合軍の清國攻擊を問ふ

答 一八五六年アルロー號事件起るや、英佛聯合して清國と戰へり。一たび天津條約にて和議成りしか、次いで一八六〇年再び開戰し、露の仲裁によりて和解し、基督教徒の宣教を許さしめき。更に佛は一八五九年安南と戰ひ、一八六二年柴棍を取り、一八六七年を以て交趾支那全部を占領したり。

二四 印度帝位の起源を問ふ

答 一八五七年印度に叛亂生じ、幾許もなく平定してモグル帝國は滅亡せり。而して印度商會は全權を英本國の政府に奉還し、ヴイクトリア女皇は印度女帝となれり（一八七七年）

二五 普墺の戰爭を問ふ

答 シユレスウイヒ、ホルスタインの二州が丁抹領となるや、墺普同盟して丁抹を攻め丁抹は和を請へり。時の普王はヰルヘルム一世にして、宰相には有名なるビスマルクありき。而してシユレスウイヒは普國之れを取り、墺國はホルスタインを取れり。既にして普は墺がホルスタインに對する處置の不當なるを口實として、一八六六年開戰を宣告せり。北部聯邦は普に左袒し、亦伊國も南方より墺を攻めければ、墺國敵し難く、遂にプラーグの條約を結べり（全年八月）此の條約によりて、墺太利は獨逸聯邦を脫し、普は新獨逸組織をたて、シユレスウイヒ、ホルスタインを合せ、又別に北部獨逸聯邦を組織して盟主となり、優に獨逸の最强者として兵馬の權を握れり。又伊太利はヴエニスを得たり。此の年墺は新憲法を發布して、匈牙利には特別の政治を許せり。これより二重政

躰となる。かくて墺匈兩國の感情一致し、國王は秘政の改良に意を用へり。

二六 普佛戰爭の端緒を問ふ

答 ナポレオン三世はライン左岸の地を得むと欲したること多年なりき。プラーグ條約の締結せらるゝや、局外中立を守りたりといふを口實として、其の地を讓らむとを、普魯西に談判して拒絶られき、次で和蘭よりルクサンブルグを購はむとして、亦普國の爲に防害せられ、更に西班牙女王イサベルが人民の反對に遇ひ、普王の一族レオポルドの迎立せらるゝや故障を提出し、なほレオポルドの王位を辭するや、普に向つて、將來其の一族をして西班牙王たらしめずとの一條を約束せしめむとせり。普國は斷乎として是れを拒絶せしかば、佛帝大に怒つて、直に開戰を宣告せり。按するに佛帝は南部獨逸の自己に左袒せむとを信じたるなり。然るに南部は却つて普國に同情し、ビスマルクは亦窃かに露西亞と同盟したり。

二七 ナポレオン三世の末路を問ふ

答 普軍にはモルトケなる名將出でゝ兵を指揮し、佛軍戰ふ毎に利あらず、遂に帝とマクマホンとは、ゼダンを固守するとなれり。されど軈て普軍の圍む所となり、佛軍力盡きて降服せり（一八七〇年九月）此の報巴里に傳はるや、市民は帝を廢して假政府

を設け、普に和を申込みしが、地を割かずとの覺悟ありしため、談判局を結ばざりき。ナポレオン三世は普軍に捕はれ、後放たれて英國に客死せり（一八七三年）

二八 フランクフオールト條約を問ふ

答 巴里市民の申出でたる談判の破裂するや、普軍直に巴里を圍み、巴里は忽ち陷落して、一八七一年一月を以て、ヴエルサイユに假條約を結び、次いでフランクフオールトに本條約を結べり。是れに由りて普は三年間に五十億フランの償金と アルサス、ローレン二州の一部とを得たり。佛國は共和政躰を組織せり。

二九 獨逸帝國の建立を問ふ

答 巴里の陷落する前に當りて、南北獨逸諸邦は、獨逸一統の必要を認め、普魯西王を世襲の獨逸皇帝となすを決定し、ウイルヘルム一世は、ヴエルサイユにて、獨逸皇帝の位に上れり（一八七一年一月）かくて仝年三月帝國議會を開設して、新憲法を制定せり。

三〇 北米合衆國の膨脹を問ふ

答 西班牙よりフロリダを買ひ、テキサスを合せ、メキシコと戰ひて、ニユーメキシコ及びカリフオルニアを取り、次でオレゴンをとり、カドスデンを合併せり。

三一　南北戰爭の顚末を略述せよ

答　一八二一年保護稅法發布せられ、一八三二年奴隷廢止會の起るや、共和黨及び民政黨二黨現れたり。前者は奴隷廢止、中央集權、保護稅主義を主張し、後者は之れに反對せり。一八六〇年共和黨のリンコルン大統領となるや、南部六州は之れに反して、亞米利加聯邦の名の下に假政府を立て、ダヴイスを大統領とせり。次で近傍の五州之れに加はり、南北戰爭の名ある大亂を生ぜり。グラント將軍は北軍を率ゐ、一八六五年を以て、南軍の根據地リツチモンドを陷ゐれたり。かくてジョンソン大統領となりて、奴隷を解放して彼れ等に公民權を與へ、一八六七年に至りては、分離せる諸州亦統一せられき。此の大統領の時アラズカを露國より購入せり。

三二　メキシコの動搖を問ふ

答　一八四八年以來全國には民政黨と僧侶との軋轢生じ、僧侶はナポレオン三世の援を得て、墺帝の弟マキシミリアンを王とせり。されど民政黨の首領シュアレット兵を擧げ一八六七年再び共和政治を組織せり。これより今日に至る。現大統領はシュアレットに次ぎけるゼアツなり。

三三　伊國の法王領侵略を問ふ

答　普佛戰爭の起るや、伊王エマニユエルは法王領を襲ひて是れを奪ひ、これより都を羅馬に移せり。時の法王はピオ九世にして、怨を遺して永眠し、次いで今のレオ十三世法王となれり。伊王エマニユエルは一八七八年死して、ウムベルト一世即位せり。ウムベルト王は一九〇〇年暗殺せられ、仝年今王エマニユエル二世即位せり。

三四　西班牙のブルボン家の再興を問ふ

答　仝國は一八七〇年伊王エマニユエルの王子を迎へて王としけるが、新王アマデオ幾許もなく位を亂し、聯邦共和國組織せられたれど、紛亂に紛亂を次ぎ、其の極ブルボン王家の再興は、國民の歡迎する所となり、アルフオンゾー十二世は一八七四年を以て即位し、翌年死して、今王アルフオンゾー十三世即位せり。十三世は幼なりしかば、母后攝政し、一九〇二年を以て、親政式を擧げり。

三五　土耳其の內亂を問ふ

答　一八七五年を以てボスニア、ヘルツエゴヴイナの二州叛を圖り、次でモンテネグロ、セルヴイアも之れに應せり。露、獨、墺は之れが調停と、土耳古內政改革を忠告せむた

めに盡力したれども、土は之れに應ぜざりき。然るにブルガリアの叛徒に加はるや、土軍之を討つて虐殺を行へり。是に於いてか露は列國の同意を得て、最後の勸告を與へたるに、土政府之れを斥けしかば、兩國の平和破れて、露土戰爭となれり（一八七七年）

三六　露土戰爭を略記せよ

答 一八七八年露軍土領に侵入し、土の將軍オスマン、パシヤの守れるプレヴナ城の陷落するや、英國は調停を提出せり。露は之れを斥けたれど、英國の怒つて開戰を迫らむことを恐れ、急にサンステフアノ條約を土耳古と締結せり（一八七八年）

三七　伯林會議を問ふ

答 英國はサンステフアノ條約に就いて異議を申込み、列國會議の開設を請求せり。是に於いてか墺露英は伯林會議を開げり（一八七八年六月）其の結果左の如し。

モンテネグロ、ルーマニア、セルヴィアの三國は獨立す。

ブルガリアの一部は土領となり、他の一部は東ルーマニアと稱して、土領内の自治州となり、基督教の太守之れを治む。

ボスニア、ヘルツエゴヴィナは墺太利施政の下に立つ。

イーパイラス、テツサリーは希臘の領となる。

露はベツサラ、カルス、アルダソン等を得。

英は土耳古領亞細亞を保護すとの名義の下にサイプラス島を得。

土耳古は兩教徒に同等の權利を與ふべしと約せり。

此の會議以後土耳古は軍備の改良に從事せり。

三八　伯林會議以後の諸國の形勢及び關係を問ふ

答 伯林會議以後の形勢を畧記すれば左の如し。

三國同盟　露は伯林會議に於いて、獨の英墺を助けたるを怨みたれば、獨は非常に備へむが爲に、墺太利と同盟し、次で一八八一年佛のチユニスを征するや、伊太利は獨と同盟せり。これを三國同盟といふ。英は暗に此の同盟を助けたり。之れに對して露佛は隱約の間に同盟を結べり。

埃及問題　一八六九年スエズ運河の開鑿成就したれども、埃及は財政困難のために、其の株を英に賣り渡せり。次いで英佛の二國は、イスマイル、パシヤの委托により て同國の財政整理に從事せり。然るに國人之れを嫌ひ、一八八一年に至りては、アラビーパシヤ兵を擧げて、副王に迫り、外人を放逐せむとせり。此の時英國は、佛に先ちて之れを鎮定せり。スーダン亦叛し、英將ゴルトンは戰死せり。是に於いてか佛の埃及に於ける勢力衰へて、事實上埃及は英の保護となれり。

英吉利の内政　愛蘭人は宗教及び耕地の問題に關して、政府に反對し、常に不平を懷けり。一八六九年の寺院廢止會も、一八七〇年の土地法も、未だ其の心を和ぐる能はず、一八八〇年グラッドストン内閣の成るや、稍其の不平を治め得たりと雖も、未だ十分に解決せられざりき。ハーチルの自治主義論は今尚ほ行はる。

英吉利と東洋　印度は全く英國の所有となり、濠洲殖民地の七州は、各自憲法を制定して自治を行ひ、やがて聯邦論起りて、一八八六年第一回聯邦會議を開き、爾來之れが爲に經營怠らず、遂に一九〇一年を以て濠州聯邦國の實を擧げり。又本國英は一八四六年にはボルネオ、一八七四年にはフヒージー島、一八八三年にはニューギニーを占領せり。又加奈陀の横貫大鐵道は、一八九一年を以て成就せり。

露國の内政　アレキサンデル二世の即位するや、寛大なる政を布き、軍隊の改良、鐵道の敷設、學問の奬勵を謀れり。然れども此の頃既に無政府主義の虚無黨起り、政府の之れを嚴重に壓制するや、益其の氣焔を揚げ、帝は一八八一年を以て其の毒刃に斃れ、アレキサンデル三世之れに次ぎ、其の後今帝ニコライ二世即位せり。

露の東方政策　太平洋沿岸の經營に意を次ぎ、一八五八年の愛琿條約によりて黑龍江左岸の地を清國より取り、一八六〇年更に烏蘇江右岸の地を取り、一八七五年には我國の樺太と千島を交換し、次で浦港を開き、一八九〇年には西比利亞大鐵道敷設の件を決定し、爾來之れに巨額の經費を支出し、昨今殆んど全部開通せり。

中央亞細亞に於ける英露の衝突　露は一八六八年以てボーカンドを取り、ボーカラの保護者となり、一八七三年ヒーヴァよりアムー河の右岸を取り、一八七六年ボーカンを亡ぼし、一八七一年伊犁に兵を進めり。依て英國はアフガンに兵を留め、露の南下を防ぎつゝありしが、一八七八年に至つてアフガンと露との同盟して英に當るや、英軍アフガンを征服し、次いで露との戰爭將に開かれむとせしが、一八八七年アフガンの北境界を定めたるによりて平和の局を結べり。次いで東北パミールの境界は一八九五年に至りて英露清間にて確定せられたり。

佛國の内政及び海外の經營　社會黨は常に内政の累をなせり。亞非利加にては、一八八二年チュニス、及びアルジールを保護國とし、東洋にては一八八三年安南を保護國とし、一八九五年東京を其屬地とし、又カムボチヤーを保護國とせり。

伊太利の内政　一八八九年を以てアビシニアを保護國とせり。然れども軍備擴張のために、財政の困難を生じて、紛議絶へず。

獨逸の内政　ビスマルクは社會黨の勃興を防かむために言論の自由を束縛せり。又此頃より海外經營に着手して、ビスマルク群島を占領せり。

墺太利　全國は平和主義によりて、異人種間の調和を計るのみなり。

北米合衆國　歐洲諸國の角逐以外に立つて、國力の增進を企て、一八五三年には我國に交通を開き、一八九八年には布哇を合併し、一八九八年には、玖馬に關して西班

牙と開戰し、勝利を得て、玖馬を獨立せしめ、最近に至りては、歐洲の事件に干渉して、帝國王義を奉ずるに至れり。これ國力增進したるが故に、モンロー主義を棄てゝ進畧主義を採れるものなり。

極東問題　一八九五年を以て日清戰爭起り、日軍の勝つや、極東問題起つて、露獨佛各極東に於ける利益を占めむとす。これ極東問題にして、露は遼東に野心を逞うし、獨は膠州灣を占領し、是れより列國の角逐甚だし。次いで一九〇〇年の北清事變となり、轉じて日英の同盟を生ぜり。

希土戰爭　土人のクリート島に殘忍なる處置を行ふや、希臘之れに干渉して兩國の平和破れ（一八九七年）希軍多く利あらず、其の結果セッサリーの地を土耳古に讓れり。

英杜戰爭　英は南阿の經營に着手してトランスヴアールを征服せしが其の後杜國叛して獨立となり、英國の經營は全からざりき。然るに一八九九年兩國の平和破れて、激戰數度に及び、本年に至つて杜國は英國に合併せられたり。

三九　最近の科學、哲學、文學、美術に於ける名家を問ふ

答　現世紀にて尤も進歩したる者は科學とす。

獨人マイエルの勢力不滅說、英人ダーヰンの進化說の二說は、最大の研究にして、

これが爲に、思想は一變せり。此他天文學、物理學、化學、生物學、醫學等大に進み、斯道の大學輩出せり。科學の應用にてはスチヴンソンの瀛車發明あり。又電氣の應用大に進み、海底電線、電話、無線電信等發明せられ、其の他には寫眞術、印度護謨、無煙火藥、爆裂彈等の發明あり。從つて兵器軍艦の改良も大に其の功を奏せり。

此の世紀には地理學の研究大に進み、リヴイングストン及びスタンレーの亞非利加內地探檢、フランクリンマルカム、ナンセン等の北極探檢等あり。又運河にはレゼップの蘇士運河、キール運河（一八九六年）に次いで、パナマ地峽の開鑿起れり。

當世紀の哲學者には

小フイヒテ、ロツツエー、ショーペンハウエル、ハルトマン、ヴント（以上獨逸人）

コント（佛人）ミル、スペンサー（英人）等の大家出でり。

文學には

詩人ハイネ、小說家フライタハ、全ハウプトマン、ズーダーマン、史家ランケ、モンセン、ジーベル、トライチケ、博言學者ホップ（以上獨逸）詩人テニソン、プラウニング、ロゼツチー、スヰンバルン、評論家カーライル、マコーレー、ラスキン、小說家チツケンス、サツカレー、エリオツト、ハーデー、史家フリーマン、博言學

者マックスミューラー（以上英國）詩人ロングフェロー、ローエル、ポー小說家ホーゾルン、哲士エマーソン、紀行文家アーヴイング（以上米國）チゴーマ、ユーゴーの二大作家、寫實流のゾラ、ブールヂエー、ゴーチエル、バルザック等（以上佛國）出で、露國よりはツルゲ子フ、トルストイ、等の作家出でたり。

繪畫には獨人コル子リウス、英人ハント、米人コール・名あり。音樂には獨人ワグ子ル、シューマンの二家出でたり。

四〇　最近世史の特色を問ふ

答　民權の擴張、立憲政体の發達、科學の進歩、東西兩洋の接近、等は當世紀の特色にして、殊に博愛的精神の勃興と共に、諸種の慈善事業起りたるも、就中一八六四年瑞典にて赤十字社の設立せられたるが如きは、顯著なる現象なりとす。

附錄第一　歴史年表

耶蘇元紀前

三〇〇〇	埃及の建國	五六〇〇	パイシストラーテス
一三二〇	モセス埃及を出づ	五二七	
一一〇四	ドリアン人の移住	五四六	サイラス王サルヂスを征す
一〇五一	ダビットの即位	五三八	サイラス王バビロニアを取る
一〇一一	ソロモンの即位	五一〇	ヒッピアス雅典を放逐せらる
九五三	猶太イスラエル兩國成る	四九〇	羅馬の王政廢せらる
八八〇	ライカルグス法典出づ	四七九	波斯戰爭
七七六	オリムピヤ祭第一回	四七七	雅典の盟主（デロス同盟）
七五三	羅馬府の建設	四四四	ペリクルス時代
七四三	メッセニア戰爭	四二九	
六六八		四五〇	羅馬十二銅表
五九四	ソロン法典出づ	四三一	ペロポン子サス戰爭始る
		四一五	雅典シラキウスを征す

四一三 雅典の敗軍
四〇五 アイゴスポタモスの戰
四〇四 雅典の三十人政治
三九七 ソクラテス死す
三九四 コリンス戰爭
三九〇 ゴール人羅馬に侵入す
三八七 アンタルキスの條約
三七九 セベスの隆盛
三七一 リユークトラ戰爭即ちエパミノンダス將軍ペロポンネソス半島を侵略す
三六七 リキニウス法案の可決
三六二 エパミノンダス死す
三五九 フヒリツプ王の即位
三五六〜三二二 デモステネス
三四三 サムナイト戰爭
三三八 カイロニア戰爭
三三六 歴山大王即位す
三三五 セベス亡ぶ
三三四 グラニコス戰爭
三三三 イソス戰爭
三三二 アレキサンドリア府を開く
三三一 アルベラの戰
三二七 歴山大王印度に入る
三二六 サムナイト戰爭
三二三 歴山大王死す
二八〇 ペルかモス家起る
二九八 サムナイト戰爭
二八一 ピロス及び羅馬の戰爭
二八〇 ゴール人希臘を襲ふ
二八〇 アカイア同盟の競爭
二六四〜二四一 第一ピユーニツク戰爭

二二七 スパルタ及びアカイア戰爭
二二一 ハンニバル將軍起る
二一八 第二ピユーニツク戰爭起る
二一八〜二〇六 スシピオ西班牙を征す
二一六 カンネーの戰
二一三〜二〇五 第一マセドニア戰爭
二〇六〜二〇一 スシピオ亞非利加に渡る
二〇二 ザーマの戰
二〇〇 第二マセドニア戰爭
一九一 羅馬人アンチオークと戰ふ
一九一 羅馬人シザルピン、ゴールを伐つ
一七一 第三マセドニア戰爭
一四九 第三ピユーニツク戰爭
一四九 第四マセドニア戰爭
一四八 マセドニア羅馬領となる
一四六 カルセーヂ亡ぶ
一四六 コリンス亡ぶ
一三三 チベリアス、グラツカス護民官となる
一二五 羅馬軍トランスアルピン、ゴールを征す
一二三 カイウス、グラツカス
九〇 社會戰爭
八八〜八二 マリアス及びサラの競爭
六四 羅馬シリアを征す
六三 ポムペイ聖地をとる
五八 シーザル、ゴールを征服す
五一〜五五 シーザル、ブリタニアを伐つ
五四

四九 シーザル及びポムペイの戰
四八 ポムペイ破らる
四五 シーザル終身執政となる
四四 シーザル刺殺せらる
四二 フヒリツピーの戰
三一 オーガスタスアントニウスの戰
三三 アクチオンの戰
二七 羅馬帝國の創始

紀元後

五四 子ロ帝
七〇 エルサレムの破壞
二二六 波斯サツサニツド朝
二八四 ヂオクレチアン帝
三一三 コンスタンチン大帝
三二四 コンスタンチノープル建設
三二五 ニカヤの會議
三六〇 ヂユリアン帝
三七六 ゴス人ドナウ河を渡る
三九五 羅馬帝國の分裂
四一〇 西ゴス王アルリツク
四一四 西班牙及びガリア地方のゴス諸王國
四二九 ヴアダル王國
四四九 英人ブリタニアを取る
五四七 西羅馬帝國の滅亡
四七六 セオドリツク
四九三 ヂヤスチニアン帝
五二六 波斯王ヒヨスラウス即メシルヴアン
五二七
五六五
五三一

五三八 ベリサリウス將軍アフリカに遊ぶ
五六八 ロンバルド王國
五六九 マホメツド生る
六〇九 マホメツド教開始
六二二 マホメツド、メヂナ府に遁る
六三二 マホメツド死す
六三二 サラセン人シリアを征す
六三九
六三二 全波斯を征す
六五一
六三八 全埃及を畧す
六四八 全亞非利加を征す
七〇九
六七三 全コンスタンチノポリスを圍む
六九八 全カルセーヂを陷る
七一〇 全西班牙を征す
七一三
七二八 東帝レオ偶像禮拜を禁ず
七三二 マルテル、サラセンを破る
七五〇 オミアツド家滅亡す
七五一 フランク王ピピン
七六八
七五五 西班牙のオミアツド家
全 ゴール、サラセンを逐ふ
七六八 シヤーレマン大帝
八一四
八〇〇 カール帝冠を戴く
八〇二 エクベルト王(西サクソン)
八三七
八四七 エルダンの條約
八七一 アルフレツド大王
八八五 北人巴里を圍む

八八七　カロリング帝國の分裂
九二四　エドワルド王
九六二　オツト一世帝位を復す
一〇〇一〜一〇二六　マホメツド教徒印度に侵入す
一〇一〇〜一〇一六　丁抹人の英國侵畧
一〇二四　獨逸フランコニア家始る
一〇三一　西班牙オミアツト家亡ぶ
一〇三五　セルヂユーク土耳其興る
一〇六〇〜一〇九〇　北人シシリーを征す
一〇六六〜一一五四　英國ノルマンヂー家
一〇七三〜一〇八五　グレゴリー七世と獨帝の爭
一〇九二　セルヂユーク土耳其の分裂
一〇九五　クレルモントの會議
一〇九六〜一〇九九　第一回十字軍
一一三八〜一二五四　獨逸ホーヘンスタウフエン家
一一四七〜一一四九　第二回十字軍
一一八三　コンスタンスの會議
一一八九〜一一九二　第三回十字軍
一二〇三　コンスタンチノープルの拉典帝國
一二〇六　蒙古の成吉思汗起る
一二一五　英吉利大憲章
一二二八　フリードリヒ二世エルサレム王となる
一二三〇　白班牙のフエルヂナンド

一二三七　グラナダ王國
一二四〇　オツトマン土耳其興る
一二五四〜一二七三　大空位時代
一二六五　ダンテ生る
一二九一　エークルの陷落
同　瑞西同盟の發端
一三〇九〜一三七六　アヴイグノンの諸法王
一三一五　モルガルテンの戰
一三二八〜一五八九　佛のヴアロア家
一三三九〜一四五三　百年戰爭
一三四一　土耳其人歐洲に入る
一三五六　ゴルデ子ブルの發布
一三八〇　チムール起る
一三九七　カルマーの合同
一四〇二　アンゴラの戰
一四〇五　帖木兒歿す
一四一四〜一四一八　コンスタンスの宗教會議
一四三八〜一八〇六　獨逸澳太利家
一四四四　ヴアルナの戰
一四五一　マホメツド二世
一四五三　東羅馬帝國亡ぶ
一四七一　アラゴンとカスチリーとの一統
一四七七　露國蒙古の羈絆を脫す
一四八六　喜望峰の發見
一四九二　グラナダ征服
同　亞米利加發見
一五一七　宗教改革の發端

一五一九 カール五世の即位
同 ツヰングリー
一五二一 同 西班牙メキシコを征す
一五二一 カール及フランソアの交戰
一五二五 普魯西侯國建つ
一五二九 スパイエル會議
一五二九 サルタン維也納を圍む
一五三〇 アウグスブルグの國會
一五三一 シユマルカルド同盟
同 ツヰングリー死す
一五三二 西班牙ペルを征す
一五三三 露西亞のイヴアン四世
一五四〇 ジエスイト教會成る
一五四五 トレントの宗教會議
一五四六 ルーテル死す
一五五五 アウグスブルグの和議
一五五六 西班牙フエリーペ二世
一五五八 エリサベス女王
一五六二 佛國ユーグノーの亂
一五七一 土耳其キプロス島を略す
同 レパントの海戰
一五八一 ニーデルランドの合一
一五八八 西班牙アルマダを英に送る
一五八九 露のルリック王家絶ゆ
一五九八 ナントの條令
一六〇三 英國スチユアルト家始る
一六一一 普國及ブランデンブルクの合一
一六一三 露のロマノフ家
一六一八 三十年戰爭起る
一六二四 宰相リシエリユー
一六三〇 グスターフ、アドルフ
一六三二 リユツツエンの役

一六三九 葡萄牙ブラガンザ家の始
一六四三 ルイ十四世
一六四八 エストフアーレンの和議
一六四九 英王チヤールス一世斬首さる
一六五三 クロムエル保護官となる
一六五七 普國獨立す(波蘭より)
一六五八 クロムエル死す
一六六〇 英國王政復古
一六七一 ニムエーゲンの條約
一六七九 土耳其維也納を圍む
一六八三 ナント勅令の廢止
一六八五 名譽革命
一六八八 ペートル大帝
一六八九 北歐戰爭
一七〇〇 西班牙王位相繼戰爭
一七二一 普國フリードリヒ一世
一七〇一 英、蘇の合併
一七〇七 ウトレヒトの條約
一七一三 英國ハノーヴル家(現今に至る)
一七一四 パツソロ非ツチの和議
一七一八 波蘭位王相繼戰爭
一七三三 マリアテレジア
一七四〇 普王フリードリヒ二世大王
仝 墺國王位繼承戰爭
一七四一 七年戰爭始る
一七四八 プラツシーの戰
一七五六 英國カナダを畧す
一七五六 英のジヨーヂ三世
一七五九 エカテリナ二世
一七六〇 巴里の和議
一七六二
一七六三

一七六八 コルシカ島佛領となる
一七七二 波蘭一回の分割
一七七四 佛王ルイ十六世
一七七六 亞米利加合衆國獨立の宣言
一七八三 愛蘭の獨立
一七八九 ワシントン大統領となる
一七八九 佛國革命の發端
一七九二 佛國共和政治
一八〇四
一七九三 ルイ十六世刑せらる
仝 波蘭第二回の分割
一七九五 仝第三回の分割
一七九五 バタヴイア共和國
一七九八 ニル河畔の戰
一七九九 ナポレオン第一執政
一八〇〇 愛蘭、大ブリテンに合す
一八〇一 露帝アレキサンドル二世
仝 リユーネヴィル和議
一八〇二 アーミンの和議
一八〇四 ナポレオン帝位に即く
一八〇五 トラフアルガー海戰
一八〇六 墺帝フランツ一世
一八〇七 チルシットの和議
一八〇八 半島戰爭起る
一八〇九 チグラムの戰
一八一〇 米國西班牙領の叛亂
一八一二 那氏露國に遊ふ
一八一三 ―一五英及合衆國の交戰
一八一三 ライプチヒの戰
一八一四 巴里の第一媾和
一八一四 那氏を廢す
一八一五 維也納會議
一八一五 チルタルローの戰
仝 第二回巴里の媾和

仝 獨逸聯邦
一八二〇 英國ジョーヂ四世
一八二一 希臘獨立戰爭
一八二二 ブラジル葡國より分裂す
一八二五 露帝ニコライ一世
一八二七 ナヴアリノの戰
一八二八 露及び土耳其の戰
一八三〇 佛國七月革命
一八三〇 白耳義の叛亂
一八三〇 波蘭の叛亂
一八三〇 英王ヰリアム四位
一八三一 中央伊太利の騷亂
一八三三 西班牙の內亂
一八三五 墺帝フエルヂナンド一世
一八三七 英女王ビクトリア
一八四〇 鴉牙戰爭
一八四〇 普王フリードリヒヰルヘルム四世
一八四一 埃及の獨立
一八四六 合衆國メキシコと戰ふ
一八四六 法王パイウス九世
一六四八 佛國二月革命
仝 伊太利獨立第一の戰爭
仝 シユレスヰツク、ホルスタインの戰
仝 瑞典聯合國州制となる
仝 墺帝フランツ、ヨセフ一世
一八四九 獨逸帝國憲法完成
仝 ノヴラの戰
仝 エマニユエル二世
一八五〇 オルミユツツの會議
一八五一 倫敦萬國博覽會
一八五二 佛帝ナポレオン二世

一八五四〜一八五六　クリミア戰爭
一八五五　露帝アレキサンドル二世
一八五七〜一八六〇　英佛聯合して支那と戰ふ
一八五七　印度土兵の叛亂
一八五九　サンヂニア、佛、相合して墺太利と戰ふ
一八六〇　ガリバルヂー、ナポリ、シチリアを征す
一八六一　エマヌエル伊太利王となる
仝　米國南北戰爭
一八六五〜一八六一　普王ヰルヘルム一世
仝　墨西哥の遠征
一八六七〜一八六六　墺普戰爭
一八六七　ルクセムブルグ問題
一八六七〇　普佛戰爭
仝　ゼダンの戰
仝　羅馬伊太利の首府となる
一八七一　普王ヰルヘルム一世獨逸皇帝の位に即く▲フランクフルトの和議
一八七七〜一八七八　ビクトリア印度女帝となる
仝　露土戰爭
一八七八　伯林會議
一八八一　露帝アレキサンドル三世
一八八三〜一八八四　清國佛蘭西と戰ふ
一八八五　ゴルドン將軍戰死
仝　グラント將軍死す
一八八八　獨帝フリードリヒ三世

仝　獨帝ヰルヘルム二世
一八八九　ブラジル聯邦共和國となる
一八九二　コロムボ大陸發見の四百年祭
一八九三　シカゴ府萬國大博覽會
一八九四〜一八九五　日清戰爭
一八九六　露帝ニコライ二世の戴冠式
一八九七　希臘及土耳其の戰爭
一八九八　米西戰爭
一八九九　英杜戰爭
一九〇〇　北清事變

附錄　第二　官立諸學校入學試驗問題

左に官立諸學校入學試驗問題を參考として掲載す。但し諸問題は、すべて卅四年度のものにして、茲に西洋歷史に關する問題のみを掲ぐ。

◉高等學校

(一)左の人名につき知る所を記せ

(イ)Demosthees (ロ)Odoacer (Odoaker) (ハ)Gustavus Adolphus (Gustar Adolf)

(ニ)Cavour

(ホ)サドワ(Sadowa)の戰爭の結果を問ふ
(三)十九世紀に於ける佛蘭西政体の變遷を問ふ

◉高等商業學校豫科

(一)三十年戰爭の結果を簡單に述べよ
(二)印度に於ける英國の勢力は如何にして樹立せしか其次第を簡單に述べよ

◉海軍兵學校

(一)蒙古帝國の四大汗國の名及其各始祖の名を紀し且つ海都の興亡を畧記せよ
(二)阿片戰爭の顚末を記せ
(三)アレキサンドル大王の事業を畧記せよ

◉陸軍士官學校

(一)歐州建設制度の起源及其衰微を起せし原因を記せ

◉海軍機關學校

(一)フィニシヤ人の性質及び其事業を述べよ

(二)歐洲の文藝復興期とは如何なる時代を指すや

◉東京美術學校

(一)兩羅馬帝國の末路
(二)獨逸の東洋政策を略記せよ
(三)那翁第一世の事業を略記せよ

◉高等師範學校豫科

(一)千八百七十七年露土戰爭の結果を記せ
(二)ハンザ同盟を說明せよ
(三)左の人々の事業を畧記せよ
デオクレチアン、マリアテレツヤ

◉高等師範學校專修科

(一)七月革命及び其の影響
(二)左の人々の顯著なる事蹟を問ふ

(イ)ソクラテス　(ロ)フランシスドレーギ　(ハ)ヴアルレンスタイン

◉外國語學校

(一)中世紀間ヴエチチア(ヴエテス)の隆盛に赴きたる理由を記せ

西洋歴史問答終

明治卅五年九月廿日印刷
明治卅五年九月四日發行

(西洋歴史問答)
定價金貳拾錢

編者　長谷川誠也
發行者　大橋新太郎　東京市日本橋區本町三丁目八番地
印刷者　水谷景長　東京市小石川區久堅町百〇八番地
印刷所　合資會社博進社工場　東京市小石川區久堅町百〇八番地

不許複製

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

受驗問答叢書

全部廿四冊
袖珍洋綴一冊
紙數二百四十頁
六號字

本年中發行目次

第壹編●新撰 日本地理問答 上村左川君編
第貳編●新撰 日本歷史問答 宮田修君編
第參編●新撰 世界地理問答 武田櫻桃君編
第四編●新撰 東洋歷史問答 松原岩五郎君編
第五編●新撰 西洋歷史問答 長谷川誠也君編
第六編●新撰 國文問答 鷹野勇雄君編
第七編●新撰 漢文問答 大田才次郎君編
第八編●新撰 算術問答 竹貫登代多君編
第九編●新撰 代數問答 竹貫登代多君編
第拾編●新撰 幾何問答 竹貫登代多君編
第拾壹編●新撰 物理問答 上村左川君編
第拾貳編●新撰 化學問答 武田櫻桃君編

◎第拾二編以下は明年の出版に掛れり本年先づ此十二冊を發兌し受驗用として學生諸君の資料に供すべし。

定價〔一冊金二十錢◉六冊金壹圓十錢◉十二冊金二圓十錢◉二十四冊金四圓◉郵稅壹冊金四錢◉一冊紙數二百四十頁〕

受驗問答叢書第一編

中學世界主筆上村左川君編

新撰日本地理問答

全一冊洋裝袖珍
正價 金貳拾錢
郵稅 金四錢

日本地理の書甚だ多し然れども普通の編纂法は煩冗散漫に失して暗記と早通に便せんには問答書の簡明適切に及ばず此編は主として中學程度以上各學校入學受驗者の爲めにせる書にして官立諸學校最近の入學試驗問題を標準として無數の新題を假設して努めて冗を避け要を摘みて簡明なる解答を爲し地理總論より(地文)全國各道に區分し凡そ日本地理地文上の問題を網羅し盡して餘すなく且つ同種に屬する問題は悉く之を一欄に類別したれば一見して夥多の題目に早通するを得べし學生諸氏は此書に付て研究せは普通の地理書によるよりは頗る僅少の時間を以て日本地理に精通し如何なる問題にも解答に苦しまざるべし編末には參考として最近二三の各學校入學試驗地理問題を集錄せり

宮田修君編

第二編

新撰日本歷史問答

全一冊洋裝袖珍
正價 金貳拾錢
郵稅 金四錢

日本歷史に關する書頗る多しと雖も中學程度以上各學校入學受驗者の便益に資するものは甚だ稀なり偶々是れあるも煩冗杜撰にして編纂其當を得ず本書は主として最近の入學試驗問題を標準として無數の新題を設け努めて冗を避け要を摘みて簡明なる解答をなし上古中古近世及今代に區分して凡て日本歷史上の問題は網羅して漏す所なく指導し讀者をして自在に了得せしむる故に學生諸氏は此書に就て研習せは僅少の時間を以て日本歷史の要義に精通するを得べし

武田櫻桃四郎君編

第三編

新撰世界地理問答

全一冊洋裝袖珍
正價 金貳拾錢
郵稅 金四錢

本書は受驗實用として世界地理の要領を問答体に簡叙せしもの先づ初めに於て地理學綱領より天文地理、地文地理、人文地理を詳明し續て亞細亞各國地誌、歐羅巴各國地誌、亞弗利加各國地誌、南北亞米利加地誌の四大區別を立ち章節數段に分ちて難解の問題を明了に解答せり、此種に關する書藉世に少なからざるも親切學生の實用を目的とせしもの本書を措て他に求むべからず。故に學生諸氏は此書に就て研究せば僅少の時間を以て世界地理の要義に精達するを得べし

長谷川誠也君編

通俗世界歷史

全壹冊洋裝上製
正價金貳拾五錢
郵稅金六錢

世界列國の交渉は、日々に頻繁となり行くの今日、苟くも文明國の人民たる者は、世界列國が古來如何なる變遷を經たりしかを識らさる可からす、著者是に於てか、先づ通俗的に世界の歷史を編述し、以て世界を知らむと欲する者の要求に應じぬ。就中宗教改革。佛蘭西革命の如き大事件は、之を仔細に記述し、延ひて昨年の希土戰爭に及べり。其地名人名は總て各國音に從ひ、且つ鼇頭に於て、古今英傑の傳を列記したるを以て、一は學生の助となり、一は通讀天下を知り得るの要書とならむ

松原岩五郎君編

第四編

新撰東洋歷史問答

全壹冊洋裝袖珍
正價金 貳拾錢
郵稅金 四錢

東洋歷史は支那を中心として開闢以來五千年、代を替ふること三十二朝歷朝の興亡尤も頻繁を極め、革命の原因盛衰の事跡一々に之を記憶せんことは初學者に取りて甚た困難なり、此書又官私立學校受驗者の便利を圖りて編述したるものにて上は唐虞三代より下清朝に至るまで歷史上に顯はれたる重大事件は悉く之を網羅し逐次問答体に記述し、別に中央亞細亞、東西印度、朝鮮、西部亞細亞諸國の興亡沿革をも併せて記述し、更に最近東洋史上の一問題となれる支那本部と域外諸民族との關係、並に十七世紀の末造歐州勢力の東漸以來亞細亞大陸に影響せし顚末、英露、佛、獨、の勢力の衝突せし事項をも洩す所なく記述したれば初學者の爲めに益する所多かるべし。

博文館發賣

凡例

049592-000-1

特62-243

西洋歴史問答（新撰）

長谷川　誠也／編

M35

BEM-0291